

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
知恵と感性を身につけ自分に誇りを持つ子どもの育成 「知恵」… 身につけた知識や言葉を必要な時に適切に効果的に活用できることが本当の学力である。基礎・基本の習得を重視し、共に学び合う授業を通して、生活に生きる学びを目指す。 「感性」… 美しいものを美しいと感じる心は、人を優しく豊かにすることができる。 「誇り」… 自分に価値があると分かれば、自信と意欲と勇氣が生まれる。自分のことが好きになり誇りとなり、人を前進させる原動力となる。そのために、健康な身体を培い、様々な活動を通して、成就感・達成感・有用感を味わわせる。	①「知恵」のために…「かしこく」のために ・校内研究の充実及びICT利活用の推進 ・反復学習、きめ細かな指導による学力の向上 ・「授業づくりのステップ1・2・3」に沿った授業の展開 ・家庭学習の習慣化と読書活動の推進 ②「感性」のために…「心豊かに」のために ・芝生や花壇等の充実と、美しい校舎内外の環境整備 ・整理整頓や清掃指導の徹底による美への意識づけ ・図工・音楽教育の活性化による情操教育の推進 ・道徳や人権教育を通しての心の教育の推進 ③「誇り」のために…「たくましく」のために ・一人一人の価値を尊重し、居場所のある支持的風土の醸成 ・体育の授業の充実と、かけ足、自力登校の推進による体力の向上 ・子ども主体の活動を通しての成就感・達成感・有用感の醸成 ・保護者、地域と連携したあいさつ運動の推進

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価									
①「知恵」のために									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校経営	〇教職員の資質向上	校内研究の推進	・全職員が授業研究会に積極的に参加し、意義のある研究会にする。	・研究授業前に指導案を読んで参加すると共に、研究会では、積極的に意見交換を行う。 ・全体研究会では、毎回講師を招聘し、研究推進のための指導助言を受ける。	豊かな 学びづくり	主幹	A	・研究会では、少人数のグループで話し合いを進めてきた。その中では、ほとんど全員が付箋紙に感想や改善意見を書き、自分の意見を発表していた。 ・今年度は、小中合同研修会も行い、書中の連携も図ることができた。来年度の発表に向けて、研究を進めていきたい。	・研究会では、少人数のグループで話し合いを進めてきた。その中では、ほとんど全員が付箋紙に感想や改善意見を書き、自分の意見を発表していた。指導案に本時の視点を明記したことで参観も協議も視点に沿って行うことができた。 ・小中合同研修会も行い、小中の連携も図ることができた。
		職員研修の充実	・指導力向上のために、全職員が教育センター講座・研発等に参加する。	・全職員1回以上センター講座や研究発表会等に参加し日頃の学習指導や生徒指導に生かす。	豊かな 学びづくり	主幹	A	・教育センターでの研修の割合は多くはないが、小中合同の研修会や公開授業での研修・夏季休業中の研修会等、多くの機会を設けて研修をしてきた。	・今年度の研究教科の算数科については、多くの研修会や研究授業などを通して、全職員が共通して研修をすることができ、資質の向上につながった。他教科等はセンター講座や研究発表会へ参加することで資質向上のため各自研鑽を積むことができた。
		国語科、算数科における基礎学力の充実	・学習状況調査において、佐賀県の平均を上回る。 ・CRT検査全国比較で、前年度より5ポイントUPする。	・日々の授業実践を充実させ、「分かる授業」を目指す。 ・子どもの学びづくり部を新たに組織し、部からの提案のもと、全校で取組を実施する。 ・学力状況調査の結果を分析し、課題を明らかにして指導の充実を図る。 ・TTとの打ち合わせの時間を設定し、TT指導時の役割を明確にし、指導法の工夫・改善を行う。	豊かな 学びづくり	野口	A	・校内研との連携で全校的に指導法の統一が図られた。・4月学習状況調査では5・6年の国語、算数それぞれで県平均を上回った。12月学習状況調査では6年生はどの教科も県平均をうわ回ったが、4・5年の社会・理科と5年算数が平均を下回る結果となった。	・保護者評価が低く学校の取り組みを周知すると共に家庭学習における連携を強化していく必要がある。 ・12月調査では、校内研の取り組みが生かされたものもあり、他教科でも汎用できるような指導を充実させていく。
		家庭学習の習慣化	・学年に応じた学習時間を80%以上の児童が達成する。 ・毎日の宿題ができた児童を90%以上にする。	・本校独自の家庭学習の手引きを配布し、保護者や児童に周知する。 ・学年毎の家庭学習の時間を、児童に意識させると共に、保護者に知らせ家庭の協力をお願いする。 ・家庭学習のよりよい実践を取り上げ積極的に知らせることで、子どもたちの意識を高め、家庭と協力しながら取り組ませる。	豊かな 学びづくり	主幹	B	・職員アンケートや児アンケートでは、95%を超える評価である。しかし、学習時間については、児童と保護者の間には差がある。 ・1,2学期の「家庭学習がんばり週間」の結果から家庭学習の時間が定着できているとは、言いがたいと感じる。	・1学期の初めに全家庭に「学習の手引き」を配布し、家庭における学習の啓蒙を行ったことは、保護者に家庭での学習の大切さを理解させることができたと思う。 ・学期に1回「家庭学習がんばり週間」を設け、児童自身に家庭学習をしっかり意識させることができたと思う。 ・「学習の手引き」にそって、学習習慣が身につくように家庭でも声掛けしてもらえるよう、学級だよりや懇談会等で話題にあげていくようにする。

教育活動	●学力向上	算数科の指導状況と小中連携の充実	・算数科に関心を持ち、既習事項を活用しようとする子どもを90%以上にする。	・年間計画をもとに、工夫改善を行いながら楽しい授業実践を目指す。 ・小中連携担当者同士の情報交換を密にする。 ・小中学校職員の参観・授業交流を実施する。	豊かな 学びづくり	松下	A	職員が、学年部会や専門部会で協力し、算数科を中心とした活用力向上のための研究に進んで取り組んでいる。中学校との研修会にも全職員が参加することができた。そして、児童の90%以上が「算数の勉強で既習事項や他者の考えを活用している」と答えている。のでAと評価した。	昨年度からの継続研究で、専門部や学年部での話し合いが活発にでき、授業研も全職員が積極的に参加して研究を進めることができた。小中連携においても、全職員が中学校の教員と研修を深めることができた。次年度以降も、この2年間の研究の成果と課題を受けて実践を重ねていく必要があると考える。TT・少人数担当とも算数科の授業改善について更に共通理解を行う必要があるとも考える。
		年間を通じた読書の推進	・年間読書冊数目標(低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊)達成者が、80%以上にする。	・朝の読書、ボランティアによる読み聞かせ(月2回)を実施し、読書習慣の定着を図る。 ・「すき間読書」を推進する。 ・親しみやすい図書館づくりを工夫する。 ・読書量、読書傾向調査を実施する。 ・多読賞を学期毎に表彰し、意欲を高める。 ・読書ノートを活用して「おすすめの本」読書を奨励する。 ・読書ボランティア「ゆめのたね」との連携を取りながら推進する。	豊かな 学びづくり	河内	B	各学年の目標冊数は、図書の本を借りた冊数だけで評価すれば、低学年90%超、中・高学年は80%超だった。来年度は、全学年90%超を目指したい。また、良書を読ませることに指導の重点を置き、目標冊数に「おすすめの本」を含めることを条件にすると、達成率はさらに下がってしまうので、手立てを考えたい。	目標冊数に達成している児童の割合がなかなか伸び悩んだが、担任の中には、目標冊数達成を意識して読書に親しむよう熱心に指導している職員もいた。全児童が目標冊数を達成し、さらに読書に親しめるよう声かけをしたり、図書委員会の児童と共に、図書室で楽しいイベントを行うなど、読書のきっかけづくりを今後も行っていきたい。また、「読書習慣が身に付く取り組みを行っているか」のアンケート結果が7割達成となっている。図書室からも図書館便りの発行や、新刊のお知らせなどを行っているが、自分自身担任の立場から、児童への声かけがおろそかになってしまっているときもある。担任自身が高い意識を持ち読書指導にあたる必要があると考える。
		幼・保・小連携の充実	・幼稚園や保育園との連携を深め、「三田川小学校の5つのやくそく」ができた児童を90%以上にする。	・幼保小連携協議会を活性化させ、積極的に情報交換を行って指導に生かす。 ・聞く態度、話す態度の重要性を認識させ、聞く話す態度の定着を図る。 ・取組の情報を発信し、家庭と連携して指導する。	豊かな 学びづくり	岡・藤原	A	児童アンケートは90%以上・職員は100%の指導を達成することができたが、保護者アンケートは85%で昨年度より8%の伸びが見られたこともありほぼ達成している。	・「話す人は一人」を徹底し、最後まで話が聞けるように指導した。 ・学習用具の準備・チャイム着席・あいさつや返事など、きちんとできている児童を賞賛しながら指導を続けた。 ・これからも、取組の情報を通信等で家庭に発信し、家庭と密に連絡を取り合うことが必要であると感じた。

②「感性」のために

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳の授業の充実	・週1回の道徳の時間を確保する。 ・家庭や地域との連携を生かした道徳教育を進める。	・年間指導計画を基にした授業の実践を行う。 ・6月の授業参観で「ふれあい道徳」として授業を公開する。 ・道徳で学んだ価値項目について学年・学級だよりなどで知らせ、家庭との連携を図る。	よりよい 生き方づくり	小野	A	職員アンケートの結果、道徳の実践回数については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は100%で、十分に確保されていると考える。また、「ふれあい道徳」では、全学級の公開授業を実施することができた。保護者からの評価は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が85%となっている。	全校で「ふれあい道徳」を実施し、心の教育を受ける姿を保護者・地域に公開したことで、道徳教育の実践の様子を効果的に保護者や地域へ発信することができた。さらに、学級だよりや懇談会で普段の授業や子ども達の様子を伝えていくことにより、より一層家庭との連携を図っていくことが大切だと考える。教科道徳が実施され、1年目ということもあり、実践しながら見直しを行った。これからも見直しを行いながら、道徳教育の充実を図っていくことが必要である。
		人権同和教育の推進と充実	・人権週間の取組の中で、全学級人権標語をつくり、頑張った児童を80%以上にする。 ・「ぼかぼか言葉」をたくさん言えた児童が80%以上にする。	・生徒指導部と連携した生活アンケートを実施する。 ・教育相談部と連携し、配慮を要する児童調査を行う。 ・校内人権週間を設定し、人権集会を実施すると共に、全校的に人権・同和教育に取り組む。	よりよい 生き方づくり	北村	A	職員、児童、地域は、「あてはまる」が90%以上に達しているが、保護者は、「あてはまる」が90%に達していない。	・全校朝会や生活朝会での話、年2回の人権週間の設定を通して、児童に人権意識を持たせ、「ぼかぼかの輪を広げよう」の実践への意欲を高めることができた。また、人権擁護委員と連携し、地域の人材を生かして人権教室を開催することができた。さらに児童が人権を意識できるように、思いやりのある行動を紹介するような場を全校的に設定していく必要がある。教育相談部や生徒指導部とのさらなる連携をしていきたい。
		美しい心の育成	・掃除を一生懸命頑張ることができた児童の数を90%以上にする。 ・履き物をそろえることができた児童の数を80%以上にする。	・清掃指導を強化し、物を大切にきれいにする心を培う。 ・履き物そろえ調べを実施し、校内放送を通して意識化・意欲化を図る。 ・運動場の芝生及び校内の花壇を充実させ、季節毎の美しい校内環境を維持する。	よりよい 生き方づくり	小野・松島	B	思いやりの心を持つ教育、いじめのない学校づくりでは、保護者のアンケートではそれぞれ85%と82%と十分でなかった。掃除活動、校内美化の項目で児童のアンケート97%、保護者のアンケートでは88%、職員のアンケートでは100%となっている。	全校で無言掃除取り組み、時間いっぱい一生懸命掃除に取り組む児童の姿が見られるようになった。委員会でトイレのスリッパ調べ、教師による上靴そろえの呼びかけに取り組んだ結果を放送することで、大部分の児童が意識して並べるようになった。しかし学校以外の場所ではできていない児童もいると考えられる。内的動機づけができるような、指導を工夫する必要がある。

	○生徒指導	基本的生活習慣の育成	・「今、何をやるべきか？」を考え行動できる児童が80%以上にする。 ・元気なあいさつができる子どもを80%以上にする。 ・正しい言葉づかいができる子どもを80%以上にする。	・月1度の生徒指導連絡会の実施とその充実を図る。 ・月の生活目標の重点目標として「あいさつ」、「言葉づかい」を掲げ、具体的手立てをとりながら指導の徹底を図る。 ・帰りの会で月の目標反省を行い、定着を図る。 ・学期毎のアンケートを実施し指導充実を図る。	よりよい 生き方づくり	浦郷	A	おしえてねアンケート、生徒指導協議会は、基本的に月1回実施することができた。児童アンケートでは、各項目が90%以上と目標値を大幅に上まった。保護者アンケートでは、B評価以上が70%前後と目標を下まわった。地域アンケートでは、全項目で昨年度より高い数値となった。	地域や家庭であいさつすることを、年間を通して指導してきた。児童も、地域や家庭であいさつすることの意義を理解し、進んであいさつができることが増えてきた。 アンケートの結果から、保護者の意識としては大きく変化していないように感じていることが分かる。今後は、家庭内や地域でのあいさつやルールを守ることなど、児童が意識して取り組めるような手立てを考えていく。
	●いじめ問題への対応	いじめ問題の早期把握と指導体制の確立	・月に1回いじめ問題を把握するアンケートを行う。 ・生徒指導部および生徒指導全体会を毎月行う。	・生徒指導部および生徒指導全体会で各学年の実態を報告し、複数の目で児童理解に努め、いじめの防止・対応にあたる。 ・毎月、「おしえてね」アンケートを実施し、いじめの実態を早期に把握して対応する。 ・スクールカウンセラーとの連携を図る。	よりよい 生き方づくり	浦郷	A	・月に1回いじめ問題を把握するアンケートを行い、児童の状況把握に努めることができた。 ・生徒指導部および生徒指導全体会を毎月行って職員の中で共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラーとの連携を図ることができ、情報共有を行うことができた。	・いじめ認知事案が発生したが、校内・拡大対策委員会を早期にもつことができ、適切に対応することができた。 ・月に1回のアンケート調査を行い、いじめの早期発見・対応、予防に取り組んできた。ただ、アンケートには書かない児童や気づかない児童もあり、アンケートのみに頼らず、児童の様子を観察し、いじめにつながりそうな言動には即時対応することが必要である。 ・SCからの情報も速やかに担任に伝わる体制が取れている。
③ 「誇り」のために									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	みんなの学校目標の周知	・教職員、保護者、地域住民への周知を図る。周知率を80%以上にする	・職員会議、全校朝会等で計画的・継続的に説明していく。 ・全教室に学校教育目標を掲示する。 ・学校だよりやHP、PTA総会、学級懇談会等で具体的な取り組みについての情報を発信する。	教務部	教頭	A	教職員は、ホームページやお便り、学級懇談会を通して学校教育目標等の周知に努めた結果、保護者の意識は、昨年より10%向上して74%担った。また、地域では85%と概ね達成することができた。	今後も、保護者には学校便りやホームページ、PTA総会などを通して資料などを工夫し視覚的に情報を提供するなどの工夫を図っていくこととする。
		学校開放と地域連携	・学校行事、授業参観への参加率を80%以上にする。 ・学校評議員、民生委員、特別支援ボランティア「ぼっけ」、読書ボランティア「ゆめのたね」との連携・有効活用を図る。	・基本的に月1回授業参観を実施し、学期に1日フリー参観デーを実施する。 ・フリー参観デーには、全学級の時間割を作成し掲示・配付するとともに、保護者・地区の方々等にお知らせして参加を促進する。 ・学校評議員へは、授業参観・学校行事等において参観してもらい、学校の様子を知らせていく。	教務部	教頭	A	・職員アンケートを除いて、90%以上の評価を得ている。授業参観の時には、平日でも多くの保護者の皆さんに来てもらっている。また、「ぼっけ」や「ゆめのたね」のみなさんとも連携を取り、うまく活動ができています。	・学校の情報は、HPや学校だより等で積極的に公開してきた。 ・学校行事や授業参観の時には、運動場を駐車場として開放し、保護者が学校に来やすい環境を作ってきた。 ・「ぼっけ」「ゆめのたね」民生委員さん等多くの地域人材と連携し教育活動に活用することができた。 ・今後も保護者が学校に来やすい環境を整え、学校の情報を伝え、信頼される学校作りをしていきたい。
	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着化と食育の推進	・朝のかけ足でめあてをもって走ることができた児童を80%以上にする。 ・朝食摂取率を95%以上にする。	・朝のかけ足と薄着で健康づくりを推進する。 ・給食指導において、決まりを守って正しい食べ方を身につけさせる。 ・保護者への啓発を行い「早寝、早起き、朝ご飯」の生活リズムをつけさせる。	たくましい 体づくり	北島	A	・かけ足については、全校児童、職員ともに80%以上が、めあてをもって取り組んでいると答えている。 ・朝食については、90%以上の児童が、毎日朝食を食べていると答えている。	・かけ足については、学期の初めには全校児童を集めて「かけ足のめあて」を確認したり、職員会議の中で、「かけ足のめあて」を共通理解したりしたことで、年間を通して、ある程度、めあてを持って取り組むことができた。また、かけ足の曲を流すことによって、あとどれくらい走れるかを児童が感覚的につかむことができた。 ・給食については、6月と11月の食育月間を中心に、学校、学年、学級からのお知らせで「早寝、早起き、朝ご飯」の普及、促進に務めている。今後も継続して取り組む必要が考えられる。
教育活動	○特別支援教育	特別支援体制の確立	・全職員が支援を必要とする児童を把握し、該当児童の個別の支援計画の作成をする。 ・全職員が支援を要する子どもに積極的に関わるように努める。	・特別支援教育研修会を年間3回行うと共に、職員間の情報交換を密にする。 ・個別の支援カルテの作成、記録用紙を統一し利用する。 ・月1回の教育相談研修会の中で、情報交換を行う。 ・特別支援級育支援「ぼっけ」と連絡を密に取り、一人一人に対応した支援を行う。 ・障害のある児童の学校生活支援のための巡回相談員及び専門家の派遣を依頼し、支援を仰ぐ。	豊かな 学びづくり	廣重	A	情報交換は、できている。個別的教育支援計画の作成、個別の指導計画の作成・見直しはできている。	・教育相談全体会は、年間計画を立てて、月1回情報交換をすることができた。ぼっけの先生とは、月1回定例会議があり、情報交換することができている。 ・個別の支援計画を立てて、活用できている。また、支援を必要とする児童については、随時、外部機関を交えてのケース会議を開き、情報を共有することができた。 ・通常学級においても、グレーゾーンの児童が増えている実情がある。巡回相談を活用したり、SCやSSWと連携を図ったりしながら、保護者の理解を得られるように努めていく必要がある。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策

学 校 運 営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進	・校務の優先順位、計画性をもった仕事の取組方を考える。 ・各担当業務の情報共有を強化する。	・業務記録表入力の簡素化を図る。 ・職員一人一人の勤務時間縮減のための目標の数値化を図る。 ・定時退勤日の徹底。	豊かな 学びづくり	教頭	A	職員の勤務時間を把握するためにパソコンを使用したことで、正確に出勤時刻、退勤時刻を把握することができるようになった。月曜日から木曜日は午後7時まで、金曜日は午後5時30分までに退勤することが守られるようになった。	次年度についても、時間を意識しながら仕事の優先順位をつける、計画的に早めに取りかかる、ことを重視していく必要がある。児童の前で元気な姿で授業を行っていくことを一人一人ができるように超過勤務を減らす努力をすることが大切であると考える。
------------------	--------------------	----------	--	--	--------------	----	---	--	--

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組
・今年度も、全ての項目がB評価以上で、A評価が14項目となり、昨年度より3項目についてA評価が増加という結果になった。本校職員が持つ能力を更に十分に発揮できるように、具体的な取り組みを考えていきたい。 ・読書啓発については、従来行われてきた担任の取組が、人事異動に伴いうまく継承されていなかったことがあり読書数が減少する状況になったしまった。今後は年度当初に担当者から十分に説明を行い、読書活動の大切さを職員一人一人が意識できるように常日頃から読書活動への取組の啓発を行っていく必要がある。 ・学力向上に関しては、「家庭学習の習慣化」の内容を児童・保護者ともにわかりやすくし、学習習慣の定着を図っているが、まだ数値に表れていない状況である。今後も、PTA総会や学級PTAにおいても直接的に保護者に具体的に家庭学習の内容や方法、声かけの仕方等を伝えながら啓発に取り組んでいきたい。 ・今年度より小中連携を行いながら児童の活用力の向上に向けて研究を行った。算数科を中心にして指導法の改善を行い、共通理解・共通実践を行って児童に力を付けているところである。次年度は今年度の研究成果をもとに研究授業等を通して指導法についての検討を進め児童にとって分かりやすい授業・楽しい授業を行うように努力していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目